

日本アニメーション学会賞 2017

選考結果・贈賞式のお知らせ

■日本アニメーション学会賞 2017：

『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論』

土居伸彰 著 (2016年/フィルムアート社)

■特別賞

片渕須直 氏

理論と実践を結びつけた創作活動をはじめとする、アニメーション研究への貢献に対して

贈賞式

日時：2017年6月24日(土) 18:30~18:45

会場：青森県立美術館 シアター 〒038-0021 青森県青森市安田近野 185

選考委員

石田美紀 (新潟大学人文学部 准教授)

岡本美津子 (プロデューサー/東京藝術大学大学院アニメーション専攻 教授)

鷺見成正 (慶應義塾大学 名誉教授)

布山タルト (アニメーション作家・研究者/東京藝術大学大学院アニメーション専攻 教授)

米村みゆき (日本近現代文学研究者/専修大学文学部 教授)

[お問い合わせ先] 日本アニメーション学会事務局 担当：和田敏克 mail: secretariat@jsas.net

[主催] **JSAS** 日本アニメーション学会 < www.jsas.net >

■贈賞理由

学会賞／土居伸彰 著 『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論』

土居伸彰氏の著作『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション』は、ユーリー・ノルシュテインの『話の話』（1979）が謎として観客に受容されてきた事実を手掛かりとし、非商業作品が呈示するアニメーションのオルタナティブな在り様と可能性を丁寧に抽出する労作である。本書は、「個人的」であることを、ノルシュテイン作品を含む非商業アニメーションを理解するためのキーワードとして提出し、作品分析を丹念に行いながら、ディズニーを標準として形成されたアニメーション史が軽視し、抑圧してきた論点を明らかにしていく。

なかでも興味深いのは、エイゼンシュテインがディズニーについて述べた「原形質性」の再考である。本書によれば、何ものにもなりうるアニメーションにエイゼンシュテインが見出した原形質性は、単なる視覚的な変化のみを意味するものではない。それは観客の意識に変容を引き起こし、目前に存在している映像とは違うものを見せることを可能にすること、すなわち「メタファー」に他ならない。もちろん快刀乱麻を断つがごとく原形質性を定義することは、原形質性が喚起してきた議論の深みと厚みを切り捨てることにもなりかねない。しかし本書は、現在の非商業アニメーションがデジタル化と共に復権したロトスコープによって現実との個人的で不安定な関係の描出に向き合っている事実に着目し、制作の地平から原形質性を考察していくことで、そのアクチュアリティを汲み取っていくのである。

このように、本書の関心は研究だけに完結しておらず、非商業アニメーションを理解するための批評軸を明確に打ち出すことで、その制作へとつながる回路を開く。研究・批評・制作を連携させ、非商業アニメーションを活性化させる循環を構築することに意識的であることは、本書がタイトルに掲げる「現代アニメーション論」にふさわしく、また方法論が洗練されるにつれて制作現場との乖離が生じてしまうある種の研究傾向についても、一石を投じるものである。

選考委員会は、ノルシュテイン作品の分析を発展させながら、現代の非商業アニメーションに生産的に関与する本書の姿勢を高く評価し、研究者・批評家・実作者が集う日本アニメーション学会にとって画期的な業績であると判断し、学会賞を贈賞するに至った。（主査・石田美紀）

特別賞／片淵須直氏 理論と実践を結びつけた創作活動をはじめとする、アニメーション研究への貢献に対して

本学会第15回大会のシンポジウム『大学に於けるアニメーション教育と研究』でのシンポジストとしての話題提供、ならびに心理研究部会等において動きに関する精力的な話題提供を行い、実作者ならではの視点から多くの研究者に刺激を与え、研究者との相互交流を深めるとともに、自身が研究会で得た視覚心理学の知見に基づく実践を、2016年に公開された作品『この世界の片隅に』の制作において積極的に試み、成果をあげた業績は特筆に値する。また教育者としても日本大学芸術学部や東京藝術大学大学院映像研究科等において教鞭をとり、後進の育成に取り組んできた。これらの精力的かつ多角的な活動がアニメーション研究およびアニメーション教育に対して与えた多大なる貢献を高く評価し、選考委員の総意として本年度の特別賞に選出した。（選考委員・布山タルト）

■「日本アニメーション学会賞」について

「日本アニメーション学会賞」は日本アニメーション学会（1998年創立／www.jsas.net）の創立15周年記念事業として2014年に創設されました。

「日本アニメーション学会賞」は主としてアニメーション研究者の顕彰・奨励を目的としております。またその授賞対象は会員に限らないものとししました。これは現状においてはアニメーションあるいはメディア芸術の分野における顕彰・奨励が伝統的な分野とは異なり作家・クリエイター中心であり、創り手以外の研究者や教育者・批評家などへの顕彰・奨励の機会はごく限られたものであるからです。本学会員の間でも、かねてよりこれを解消すべき大きな課題であるとする意見が少なからずありました。

本学会がこの賞を設けることにより、これまで顧みられることの少なかった研究者の顕彰、特に若手研究者の奨励を実現させたことは、学会としての社会的使命の一つを果たすことに繋がるのではないかと考えます。「日本アニメーション学会賞」がアニメーション分野あるいはメディア芸術分野の学術研究の活性化を促し、その一層の発展に寄与ことを本学会員一同、心より願っております。

日本アニメーション学会ではこの賞を本学会会員皆の力で支え育て、末永くまた大きく発展させていきたいと希望しておりますので、関係各位の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本アニメーション学会会長 小出正志（東京造形大学教授）